

雪のいと高う降りたるを 枕草子

① 雪の が とても 深く 降り 降つ た たる のに いつもと 違つて を、例 を ならず 御格子 参りて、
を下ろし申し

炭櫃に火おこして、物語などして、集まり候ふ を に、
おしやべり 女房たちが御前に 控えていた 時

② 「少納言よ、香炉峰の雪、いかなら は む。」「と仰せらるれば、
どうなっている でしょうか 体 おつしやる ので

③ 御格子上げさせて、御簾を高く上げたれば、笑はせ給ふ。
を 巻き た ところ お 笑い になつた

④ 人々も、「さる そのような 詩句 ことは知り、歌などにさへ まで 歌へど、
歌う けれど

思ひこそ 寄らざりつれ。
思い よら なかつ た

⑤ なほこの宮の やはり 宮にお仕えする に として は、さ ふさわしい べき 人 な である めり。」「と言ふ。
撥音便 撥音便